＜重度知的障害を伴う自閉症スペクトラムの言語・コミュニケーション指導＞

講師：よこはま発達相談室　言語聴覚士　飯塚直美先生

① 重度の知的障害があるＡＳＤの人の言語・コミュニケーション指導で重要なこと
音声言語（話ことば）にこだわらず、視覚的な方法なども活用して
＜受信面＞
・ものごとの関係性（ネットワーク）の理解を広げる
・他者が発する（自分にとって意味のある）信号に注目→解読（意味を理解）できるようにしていく
＜発信面＞
・適切な伝達（表現）方法の習得→他者に伝えたことで意味のある結果が得られた（例：ほしい物が手に入る、困難な事態を避けられる）という実態を積み重ねる→伝達意欲（自発性）の促進

※適切な支援/指導を提供するためには評価（能力や特性の把握）が不可欠

② 言語の受信（理解）・発信（表出）とも困難なケースの言語・コミュニケーション評価
・＜Ｓ－Ｓ法＞の記号形式 - 指示内容関係の段階の評価とそれに基づく指導/支援プログラムは、音声言語（話ことば）の理解・表出とも未習得のケースに有用

③ よくある質問
・カードに頼ると言葉が伸びなくなるのでは？
→視覚的な方法を用いることでコミュニケーションの成功体験が積み重なる
コミュニケーションに対する安心感や意欲が高まる
視覚的なイメージが手がかり（媒介）になって、言葉の理解や表出が促される

④ 構造化（ＴＥＡＣＣＨやＳＰＥＬＬ）における基本的支援
・周りの環境の意味や自分のすべきことが理解しやすいように、その人の脳の働き（ものごとの見方や感じ方の特徴）に合わせて環境を整える

・自閉症の人たちの強み（視覚的情報処理に優れる）を生かした視覚支援（目で見てわかる方法による支援）が基本

・自閉症でＯＫ：自閉症を「治す」とか「克服する」ことを目ざすのではなく、自閉症であることによる苦痛や不利益を最小限にするための、自閉症にやさしい環境づくり